

# AMCoR

Asahikawa Medical University Repository <http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/>

看護研究集録(2015.12) 平成26年度:17-19.

婦人科がん患者の口腔ケアに対する看護師の意識調査

白川 亜耶、阿部 彩映子、小坂 里帆、太田 一美、北川 佳  
奈子

## 「婦人科がん患者の口腔ケアに対する看護師の意識調査」

旭川医科大学病院 5階東ナースステーション  
○白川 亜耶、阿部彩映子、小坂 里帆、太田 一美、北川佳奈子

### 【はじめに】

A病棟では婦人科がん化学療法患者が2013年4月から2014年1月までで62名。その中で口内炎の発現頻度が高い薬剤を使用している患者が98%を占めている。治療開始前に口腔トラブルや口腔内の清潔保持について説明しているが、その後の観察や口腔ケアに関する指導は十分ではない。要因として他の副作用に意識が向き見過ごされてしまうことや短期入院などが考えられるが、現状は明らではない。

### 【目的】

婦人科がん化学療法患者の口腔ケアに対する看護師の意識や関心、看護の実際を明らかにし、がん化学療法患者へよりよい口腔ケアを行うための示唆を得る。

### 【研究期間・方法】

2014年1～4月に病棟看護師23名に独自で作成した質問紙を用い、選択肢及び記述式による回答を求めた。

### 【結果】

治療開始前に口腔トラブルの説明をしている者は17名で74%である。(知識)口内炎が高頻度に発生する薬剤を全て把握できている者は全体で2名で9%。口内炎が出現する時期を理解している者は10名で43%であった。

〈看護の実際〉発現時期を意識している者は4名で17%、経験年数10年以上は3名で13%。発現時期を意識しケアも行っている者は経験年数10年以上の3名で13%。発現時期を意識してもケアできない理由は「他の副作用と比較すると重要性が低い」「予防が重要という認識が低い」次いで、「患者が退院している」「患者からの訴えを待っている」があった。観察項目は、痛みや味覚が多く、観察できていない項目は口臭、開口状態、口唇周囲であった。口腔ケアの苦手な項目は技術、アセスメントで経験年数での差は無く、経験年数10年以上は口腔内観察を選択する者が多かった。

### 【考察】

病棟看護師の7割以上が治療開始前にパンフレットに沿った指導はできているが、口内炎に対する知識が十分ではないため、口内炎発現時期を意識した口腔内観察ができていない可能性が考えられる。また化学療法患者は、在院日数が短く、口内炎発現時期には既に患者が退院している例が多く、直接観察できないことから意識の低下の原因の一つと考える。さらに経験年数に関係なく口腔ケアに関して困っている看護師が多く、知識が不十分のままケアを行っている現状が明らかになった。そのため口腔ケアに対する知識、技術を身につける事が早急な課題である事が示唆された。さらに患者への指導方法の統一を図ることが、より良い看護ケアに繋がると考える。

# 婦人科がん患者の 口腔ケアに対する 看護師の意識調査

旭川医科大学病院 5階東ナースステーション

○白川亜耶 阿部彩映子 小坂里帆

太田一美 北川佳奈子

## はじめに

- 当院婦人科病棟で、化学療法を受ける患者は2013年4月から2014年1月までの間で62名。
- 口内炎の発現頻度が高い薬剤を使用している患者が98%を占めていた。
- 治療開始前に口腔トラブルや口腔内の清潔保持について説明しているが、その後の観察や口腔ケアに関する指導は十分ではなかった。
- 要因として他の副作用に意識が向き見過ごされてしまうことや短期入院などが考えられるが、現状は明らかではなかった。

## 目的

婦人科がん化学療法患者の口腔ケアに対する看護師の意識や関心、看護の実際を明らかにし、がん化学療法患者へよりよい口腔ケアを行うための示唆を得る。

## 研究期間・方法

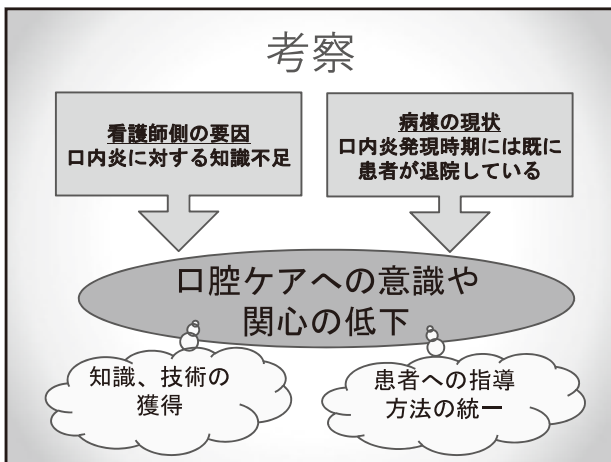
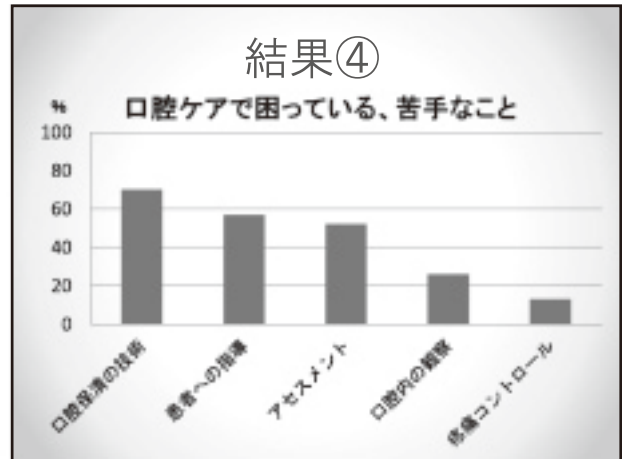
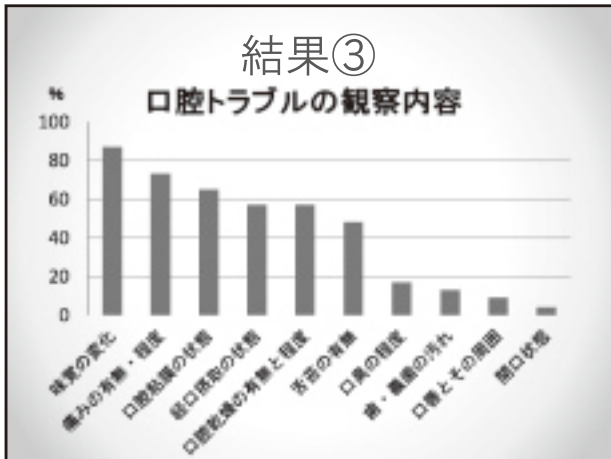
2014年1～4月に病棟看護師23名に独自で作成した質問紙を用い、選択肢及び記述式による回答を求めた。

## 結果① ～知識～

- 治療開始前に口腔トラブルの説明をしている者…17名(74%)
- 口内炎が高頻度に発生する薬剤を全て把握できている者…2名(9%)
- 口内炎が出現する時期を理解している者…10名(43%)

## 結果② ～看護の実際～

- 発現時期を意識している者：4名(17%)  
→経験年数10年以上が3名(13%)
- 発現時期を意識してケアしている者：3名(13%)  
→全て経験年数10年以上
- 発現時期を意識してもケアできない理由  
「他の副作用と比較すると重要性が低い」  
「予防が重要という認識が低い」  
「患者が退院している」  
「患者からの訴えを待っている」 など



### 結論

- 口腔保清の技術、患者への指導、アセスメントに苦手意識があり、それらの知識や技術を身につける事が今後の課題である。
- 入院期間が短いことを踏まえた指導方法の統一を図ることが、より良い看護ケアに繋がる。

### 引用・参考文献

- 1) 原田江梨子他：がん患者における口腔ケア、月刊ナーシング Vol.21 No.2 P.43 2001
- 2) 大西徹郎：口腔合併症の理解とセルフケア、がん患者ケア Vol.4 No.2
- 3) 長谷川素美：プロフェッショナルがんナーシング～プロフェッショナルを目指す看護師のために～ メディカ出版 Vol.3 No6 2013